

第7回ごみ焼却施設用地検討部会議事録（概要）

- 1 **開催日時** 平成26年7月24日（木）午前10時から11時30分まで
- 2 **開催場所** 鎌倉市役所 鎌倉市議会全員協議会室
- 3 **出席者** 荒井会長、河邊副会長、
深山秀男様、石井信様、矢澤基一様、岩佐勝司様、吉田好明様、三浦昭男様、
尾島隆史様
- 4 **事務局** 石井環境部長、小池環境部次長、遠藤環境施設課長、近藤環境施設課課長補佐、
齋藤環境施設課課長補佐、花田環境施設課環境施設担当

5 協議内容

- (1) 3次選定（比較検討項目等）の検討について
- (2) その他

6 配付資料

- (1) 「新焼却施設建設用地選定に係る調査表（未定稿）」
- (2) 「4候補地に対する相対比較項目（19項目）の調査結果概要について
（素案・未定稿）」
- (3) 「洪水ハザードマップ（写）」
- (4) 「土砂災害ハザードマップ（写）」

7 会議の概要

主な質疑応答等の内容は次のとおりです。

荒井会長

本日の資料は、未定稿で未成熟な資料であり、比較検討の過程であるため、本日の資料は非公開の資料として「取扱注意」ということの方がよいと思いますが、時限的な措置を考慮して、前回までの当部会の資料は、すべて公開としてよいのではないかと考えますが、いかがでしょうか。

（了承）

荒井会長

異議なしということで、前回までの資料はすべて公開とし、本日の資料は「取扱注意」でお願いします。

続いて議事録の確認についてお願いします。

齋藤課長補佐

一箇所9ページ、「梶原町内会」を「梶原山町内会」に修正させていただきました。その他の修正箇所はありません。

荒井会長

議事録の修正について、他にはよろしいでしょうか。

(了承)

荒井会長

特にないようですので、これで了承とします。事務局は鎌倉市ホームページへの掲載をお願いします。

荒井会長

それでは本日の協議に入ります。まずは事務局から説明をお願いします。

齋藤課長補佐

「4候補地に対する相対比較項目（19項目）の調査結果概要について（素案・未定稿）」を中心にご説明いたします。（以降、資料1～4に基づいて説明）

引き続き、項目の19番、「各候補地が抱える課題について」を遠藤からご説明いたします。

遠藤課長

「各候補地が抱える課題について」では、現時点での課題として挙げさせていただいています。

（以降、資料1に基づいて説明）

各候補地の課題に対して、どのような対応ができるのかに関しては、次回以降にご説明していきたいと考えています。

荒井会長

ありがとうございました。事務局より現状について説明がありましたが、ご質問、ご意見があればお願いします。

河邊副会長

何点が質問があります。まず、項目が示されましたが、これをどう評価していくのですか。採点して候補地を絞り込んでいく方法等が考えられます。

遠藤課長

市の中でも議論があります。これは、用地検討部会からどのように生活環境整備審議会に報告するかにも関係してきます。方法としては、点数化する方法が一つとしてあります。次に、評価の基準を決めて、例えば、◎や○等の数で評価しながら、言葉で報告する方法もあります。更に、個別には評価や点数化はせずに、トータルとして言葉でまとめていく方法が考えられます。次回に案として示させていただきますので、それを基にご議論いただければと思います。

河邊副会長

具体的にどのような方法で比較を行うかは、次回に決めるということですか。

遠藤課長

市から案として示させていただきます。

市としましては、当部会で1箇所に絞っていただくのは、困難なことだと考えています。本部会の比較検討結果を生活環境整備審議会に報告していただき、その報告を基に生活環境整備審議会からも意見を頂き、最終的なまとめを行なうこととなります。最終的に12月頃の答申を考えていますが、その答申の中でも1箇所に絞っていただくことは大変困難なことだと思います。

河邊副会長

そうなると、項目19番のような形でとりまとめて、市の内部で最終的に決めていくということですか。

遠藤課長

総合的に判断しながら1箇所に絞り込んでいきたいと考えていますが、みなさんからもご意見をいただきながらということになります。

河邊副会長

8番の「住宅の密集度について」で、200m、500mで想定していますが、1戸であっても10戸であっても捉え方は同じで、数による差はないと思います。数で評価をしてはいけないのではと思います。

12番の「将来的な施設の建替え、増築、改造等への対応可能性について」で、建替えのコメントがないので入れてください。例えば、山崎下水道終末処理場は建て替えの余地はないかと思っています。

16番の「地元還元施設の実現可能性について」は、住民の方々と相談して決定していくことになるので、項目として挙げるのはよいとしても、評価をすることは難しいと思います。

17番の「防災拠点としての可能性について」は、防災拠点としての整備をしないと交付金がもらえないので、具体的な内容については、今後、住民の方々の意見をお聞きするとして、そういった施設整備をする前提とするのがよいと思います。

18番の「施設から発生するエネルギー活用について」は、今の段階では、規模が決まる程度で、細かい条件は決定していません。どの候補地になったとしてもエネルギーを活用していくことにするのがよいと思います。

19番の「各候補地が抱える課題について」は、ほとんどの課題は解決できるのかもしれませんが、記載されている課題が解決できるのか、できないかについてのコメントが必要だと思います。

荒井会長

ありがとうございました。他の皆様はいかがでしょう。

市民F

道路関係の問題、距離の問題、効率の問題は、直接コストに関わるので重要です。特に、交通

渋滞は心配されます。道路の幅が狭い場所に建った場合、そこにパッカー車が1日に100台以上出入りすると交通渋滞が問題になります。野村総合研究所跡地の場合だと三叉路、ロータリーのある箇所、右折が相当問題になると思います。どの候補地の場合でも、ごみ焼却施設に入る箇所は県道ですが、例えば、ロータリーを撤去する等、対策を打たないと交通渋滞が心配です。

次に、ごみはどこの地域でどれだけ排出されるか分かっているはずですが、パッカー車のルートも分かっているはずですが、そういった数字が資料に出ていない。データがあるはずなので、はっきりとした数字が出るはずですが、話が煮詰まってきたので、そういった数字の裏付けを出す必要があると思います。具体的な数字で表さないと影響について分析ができないと思います。

荒井会長

事務局、いかがでしょうか。

遠藤課長

各候補地におけるシミュレーションまでは難しいと思います。ただし、人口重心の情報があります。4候補地は、たまたま人口重心の近くに位置しているため、(パッカー車が)市のどこに向かったとしても距離や時間は同程度と思われると思います。名越クリーンセンター、今泉クリーンセンターは市はずれに位置するため、収集に時間がかかっています。この4候補地の場合は、同じような箇所にあるため、比較をしても大きな差は出ないと思います。

市民F

時間、距離は差がないかもしれませんが、パッカー車が入ってくるルートはどうですか。

遠藤課長

現在使用しているルートを想定すれば、ある程度主要ルートは分かると思うので確認してみます。それぞれの候補地での交通事情があります。基本的には県道を中心としてルートを設定していく必要がありますが、この時点で決定するのは難しいです。ある程度、現在のルートを見てお示しできるものがあればお出しします。

荒井会長

道路交通上の課題は重要です。それぞれの候補地の道路交通上の課題と解決策などを整理してみてもどうでしょうか。

市民F

もう一点、コストの問題について、建設費用は規模によって概算費用が出ますが、整地についてはどうでしょうか。例えば、山崎下水道終末処理場は整地費用が掛からないが、野村総合研究所跡地は橋の造り替えが必要だと思います。また、現存する建物を解体する場合には大きな費用がかかります。ごみ焼却施設を建てる前の整備費は候補地によってかなり異なると思いますので、この件についても具体的な数字で出さないと検討ができないと思います。

齋藤課長補佐

現在、計算をしています。今回は精査まで進めなかったのでお示しできませんでしたが、次回にはお示しします。

遠藤課長

13番の項目でお示ししたいと考えています。

市民F

相当な費用が必要となる候補地もあると思います。

遠藤課長

概算にはなりますが、目安になると思います。

荒井会長

次回、数字を出してください。

他はいかがでしょうか。順番に意見をお願いできますか。

市民A

4 候補地は基本的には公共用地ですが、山崎下水道終末処理場は、目的外の使用になるため、新たに土地を買う必要や都市計画の変更といった問題があると思います。深沢地域総合整備事業区域内市有地は、区画整備や上位計画にごみ焼却施設を入れるという決定をしないといけません。また、10年後に稼働できるのかといった問題があります。山崎下水道終末処理場の場合、元々、熱エネルギーは持っているので、焼却施設の合わせて大きな熱利用を考えることができるかもしれません。

地元還元施設について、行政内部で「こういった地元還元施設を造ります」と決めて進めていく姿勢が必要かと思います。比較検討について、本部会で各項目に点数を付けることは難しいと思いますので、「どの候補地でも建設は可能であるが、各候補地にはそれぞれこういった問題があります」といった評価を行ない、生活環境整備審議会に報告するのがよいと思います。法的な問題については十分に調査して欲しいと思います。

遠藤課長

ご意見がありましたとおり、各候補地が抱える課題については、解決できるか、できないかということが重要になってくると思います。課題をどう解決できるかについて、具体的にお示しできるものがあれば、次回にご説明したいと思います。地元還元施設に関しましても、庁内で公共施設再編計画が進んでおりますので、何ができるかを関係課と調整していきたいと思います。

市民B

相対比較項目については、事務局から具体的に説明いただき、よく理解できました。

13番の「焼却施設建設に伴う付帯費用について」は、次回示していただけるということですのでよいとして、16番の「地元還元施設の実現可能性について」は、やはり具体的に例を挙げ

ていかないと進まないと思います。

17番、18番の項目については、当然実施していくということをはっきり示せばよいのではないのでしょうか。

4つの候補地を見た私の感想を含めて述べさせていただくと、1箇所には絞らないという話でしたが、私は2つ程度に絞るのがよいのではないかと思います。なぜかと言うと、深沢クリーンセンターを見た場合、物理的に道路が狭く、建設は難しいと感じました。また、面積も小さく、施設の裏には崖があり、既存の建物の撤去費用も掛かります。前の道路も交通渋滞で混んでいます。我々、素人が見ても明らかによくないことが分かりました。そういった箇所をいつまでも候補地として残しておくことがよいのかということがあります。駄目なものは駄目という意見があってもよいと思います。山崎下水道終末処理場についても進入道路の問題があり、新たに進入道路を検討しないといけないという話でした。また、候補地は、現在の施設が老朽化した場合の代替地であるということを総合して考えると、あくまで感想ですが、山崎下水道終末処理場も他の候補地と比較して少し落ちる感じがします。

深沢地域総合整備事業区域内市有地について、いろいろと難しい問題があるにしても更地であることや接道のことを考えると、候補地としては良い。浸水に関しては対策を考えればよいと思います。あとは地元還元施設のことも含めて考えることとなりますので、隣に保育施設や福祉施設を造ると掲げて権利者への説明や都市計画決定を進めていく必要があります。「何か造ります」では進んでいかないと思います。

最後に野村総合研究所跡地は、鎌倉市内にこれほど良い場所はないと思いました。場所的には最高の場所だと思います。山の上であるため、周りに住宅地がなく、その他の問題も少ない。提案ですが、この場所に総合運動公園を造り、その一角にごみ焼却施設を建設するというのはどうでしょうか。この計画は一度にはできないと思いますので、一期、二期、三期ぐらいに計画をして、ごみ焼却施設から発生した熱や電気を周りの施設に供給するという計画で進めていくことはどうでしょうか。この候補地も既存の建物があるため、コストは高くなることが想定されるので検討が必要です。

実際に各候補地を見ることでそれぞれの状況が分かり、視察はとても参考になりました。いつまでも4つの候補地を引きずることはどうかというのが私の意見です。

市民C

先日、神奈川新聞の一面に記事が出ていました。藤沢市の副市長から何か申し出があったとのことですが、具体的に内容を説明していただけませんかでしょうか。

石井環境部長

藤沢市から4つの候補地について正式に説明を求められました。藤沢市とはまちづくりの関係がありますが、これまで鎌倉市から藤沢市には報告をしていませんでした。そこで、鎌倉市側は副市長、拠点整備部長と私が、藤沢市は副市長と都市整備部長が同席している中で、候補地を4つに絞った経緯を、この用地検討部会で使用した資料を基に、私から説明をさせていただきました。藤沢市からは、状況は分かったので「湘南地区整備連絡協議会の場で説明をしてください」との要望がありました。そこで7月18日に湘南地区整備連絡協議会を開催して、その場で、私から報告をさせていただきました。

藤沢市の捉え方としては、4つの候補地は機械的に抽出されたものであり、深沢地域総合整備事業区域内市有地も候補地の一つであるということを理解していただいたという認識でいます。今後は候補地の比較評価を行っていきますが、その比較評価の中で、その候補地の位置付けがどういものであるかということも考慮されるということをご説明しています。藤沢市としては、「鎌倉市が行なうことなので、どの候補地が良い、悪いと意見するつもりはありませんが、深沢地域については、これまでの流れや今後の影響もあるため、お話をさせていただいた」とのことでした。今後は、藤沢市としては、鎌倉市の推移を見ながら対応をしていきたいとのことでした。

市民D

皆さんが話されたことで、ほとんどの話は出たと思います。私は、昨日候補地の視察した中では、野村総合研究所跡地が土地としては一番良いと思いました。ごみ焼却施設を造ることで逆に利用価値が高められることもあるのではないのでしょうか。

深沢地域総合整備事業区域内市有地は、広くて利用価値があると思いますが、いろいろな意味での難しさがある候補地だと思います。山崎下水道終末処理場は交通が便利なので、無理して造ることを検討してもよいのではないかとも思いました。

市民E

三浦半島4市の広域化、エコループプロジェクトの話が欠けているように思います。逗子市との広域化の話もなんとなく壊れています。今後は、広域化の話をどう捉えていけばよいのでしょうか。それによって内容も変わってくると思います。なお、車の流入についての話がありましたが、戸別収集になった場合の話が欠けていると思います。立地の条件の中にこういった話も取り入れていく必要があると思います。

遠藤課長

広域化について、平成10年から三浦半島4市1町で広域化の検討が進められ、途中にエコループの話があり、その後、広域化の枠組みの変更があり、現在は、逗子市と鎌倉市での2市の枠組みで広域を検討してきたという経緯があります。現在でも、逗子市とは協議会を継続しており、現存のごみ焼却施設に関しては両市とも延命化工事を行い、10年先まで今の焼却施設を使い、その後の焼却施設整備を含め当面、焼却施設については、各々の市で処理することになっています。広域の体制として、焼却以外に危機管理や災害時の対応においては、両市で協力体制を取ることになっています。さらに、リサイクルについても協力ができるものは今後も、広域で考えていきたいと思いますという協議も行っており、今後も引き続き2市で協力していく状況になっており、鎌倉市の新焼却施設建設は、逗子市にもご理解を得ているところです。

荒井会長

東日本大震災以降は、周辺市町村が手を握り合わないと、中々ごみの処理ができないということで、広域化や協定といった形で困ったときはお互い助け合いましょうということを環境省でも進めています。

市民 G

候補地を公式に発表したの、関係する地域に対して、これまでの経過を含めた説明会を行っていく必要があると思います。どの場所に決まったとしてもフォローを大事にして欲しいと思います。今の段階から行っていく必要があると思いますので、よろしくお願いいたします。

遠藤課長

6月の観光厚生常任委員会で報告した後に、4候補地周辺の町内会長様には、個々にご説明をさせていただきました。今後、どのような形で市民の方に広報を行なっていくかは、現在検討を行なっているところではあります。

荒井会長

時間となりましたので質問、意見については以上とします。事務局は、次回の資料作成では、委員の皆様の質疑に答えていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(3) その他

荒井会長

それでは「その他」について事務局からお願いします。

遠藤課長

次回の開催予定について、8月29日の金曜日、午後14時からの開催を予定させていただいています。場所は未定ですので、改めて通知いたします。

荒井会長

それでは、次回は8月29日の金曜日14時からということでよろしくお願いいたします。少し期間がありますので、それまでに意見があれば事務局までお願いします。

それではこれで協議は終了とします。ありがとうございました。